

南 監 査 号  
令和4年11月18日

南 幌 町 長 大 崎 貞 二 様  
南 幌 町 議 会 議 長 側 瀬 敏 彦 様  
南 幌 町 教 育 長 小 笠 原 正 和 様  
南 幌 町 農 業 委 員 会 会 長 鍋 山 洋 一 様

南幌町監査委員 白 倉 敏 美  
南幌町監査委員 佐 藤 妙 子

## 令和4年度南幌町定例監査報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号、以下「自治法」という。）第199条第4項の規定により実施した、定例監査結果に関する報告を同条第9項の規定により次のとおり提出します。

### 記

#### I. 監査実施期間

令和4年10月20日から令和4年11月2日まで（うち7日間）

#### II. 監査対象課等

議会事務局、総務課、まちづくり課、住民課、税務課、出納室、保健福祉課、都市整備課、産業振興課、農業委員会事務局、教育委員会生涯学習課、学校給食センター、スポーツセンター、南幌小学校、南幌中学校、町立南幌病院

#### III. 監査の手続き

令和4年9月末における南幌町定例監査にあたっては、地方自治法第199条第1項の規定に基づき、普通地方公共団体の財務に関する事務の執行及び普通地方公共団体の経営に係る事業の概要把握に努めるとともに、南幌町監査基準に基づき、令和4年度町政執行方針及び教育行政執行方針の執行状況、令和4年度予算見積書総括表に掲げられている重点事項について、9月末までの実施状況の検証と10月以降の事業実施計画について、定例監査の基本的な着眼点を次のとおりとし、担当職員からの聞き取り及び関係書類の閲覧により検証した。

1. 住民の福祉が図られ、少ない経費で最大の効果を挙げられるよう執行されているか。
2. 事務、事業が効果的、経済的かつ法令及び条例等に沿って適正に執行され、公正と能率が図られているか。

なお、定例監査の実施にあたって、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に留意するとともに、その事業への影響について検証している。

#### IV. 監査の内容

##### 1. 一般会計9月末歳入状況について

(単位：千円)

歳入科目	令和4年9月末			前年同期 収入額	前年同期対比	
	予算現額	収入額	収入率		増減額	増減率
町 税	775,054	458,232	59.1%	441,598	16,634	3.8%
地 方 譲 与 税	89,700	23,263	25.9%	26,118	△2,855	△10.9%
地方消費税交付金	162,000	99,443	61.4%	100,282	△839	△0.8%
ゴルフ場利用税交付金	4,000	2,418	60.5%	2,285	133	5.8%
環境性能割交付金	5,500	2,614	47.5%	2,156	458	21.2%
地方特例交付金	6,116	6,116	100.0%	6,496	△380	△5.8%
地 方 交 付 税	2,633,962	1,652,983	62.8%	1,637,621	15,362	0.9%
そ の 他 交 付 金	10,300	6,542	63.5%	5,462	1,080	19.8%
分担金・負担金	12,177	3,527	29.0%	3,686	△159	△4.3%
使用料・手数料	37,358	22,150	59.3%	19,308	2,842	14.7%
国 庫 支 出 金	1,478,032	191,903	13.0%	314,795	△122,892	△39.0%
道 支 出 金	1,068,162	291,728	27.3%	230,107	61,621	26.8%
財 産 収 入	21,225	8,970	42.3%	28,879	△19,909	△68.9%
寄 附 金	123,440	61,246	49.6%	58,981	2,265	3.8%
繰 入 金	383,529	0	0.0%	0	0	—
繰 越 金	189,805	189,805	100.0%	162,097	27,708	17.1%
諸 収 入	208,552	52,525	25.2%	35,852	16,673	46.5%
町 債	832,853	0	0.0%	0	0	—
合 計	8,041,765	3,073,465	38.2%	3,075,723	△2,258	△0.1%

9月末の収入額合計は3,073,465千円と予算現額に対し収入率38.2%、前年同期比△2,258千円、0.1%減少している。

町税は予算現額の9.6%を占める基本的な自主財源であり、458,232千円と前年同期比16,634千円の増加となっている。

地方消費税交付金は99,443千円と前年同期比△839千円、収入構成比は2.0%となっている。

基準財政需要額を基本として交付される地方交付税の令和4年度分普通交付税決定額は2,243,962千円と前年度の当初決定額2,183,206千円を60,756千円、2.8%上回った。

寄附金では、ふるさと応援寄附金が5,100件、64,810千円と前年同期の4,250件、52,359千円を850件、12,451千円、23.8%上回っている。

## 2. 一般会計9月末歳出状況について

(単位：千円)

歳出科目	令和4年9月末			前年同期 執行額	前年同期対比	
	予算現額	執行額	執行率		増減額	増減率
議会費	53,664	26,519	49.4%	26,929	△410	△1.5%
総務費	2,878,283	860,949	29.9%	557,396	303,553	54.5%
民生費	1,235,130	455,957	36.9%	382,775	73,182	19.1%
衛生費	681,407	357,347	52.4%	361,829	△4,482	△1.2%
農林水産業費	1,153,020	352,275	30.6%	342,658	9,617	2.8%
商工費	132,968	80,470	60.5%	121,828	△41,358	△33.9%
土木費	666,101	166,016	24.9%	129,244	36,772	28.5%
消防費	246,594	132,924	53.9%	140,679	△7,755	△5.5%
教育費	379,453	131,840	34.7%	152,042	△20,202	△13.3%
公債費	614,287	251,778	41.0%	236,059	15,719	6.7%
予備費	858	0	0.0%	0	0	—
合計	8,041,765	2,816,075	35.0%	2,451,439	364,636	14.9%

予算現額は、繰越額 1,280,949 千円を含め 8,041,765 千円に対し、歳出執行額合計 2,816,075 千円は、前年同期比 364,636 千円、14.9%増加している。

款別に前年比で 1,000 千円以上増減した主な内容は、総務費では一般管理費 (△6,951 千円)、企業誘致推進費 (△9,261 千円)、職員給与費 (△3,510 千円) などは減少したが、財産管理費 (18,956 千円)、企画振興費 (295,210 千円)、賦課徴収費 (1,692 千円)、選挙費 (5,446 千円) 等の増加により 303,553 千円増加している。

民生費では重度心身障がい者福祉費 (△1,630 千円)、子育て世帯への臨時特別給付金給付事業 (△4,520 千円) などが減少し、社会福祉総務費 (1,372 千円)、障がい者福祉費 (7,032 千円)、住民税非課税世帯等臨時特別給付金事業 (51,281 千円)、児童福祉総務費 (9,524 千円)、保育所費 (10,327 千円) 等の増加により 73,182 千円増加している。

衛生費では保健福祉総合センター管理費 (3,388 千円)、じん芥処理費 (33,482 千円)、上水道施設費 (2,143 千円) などが増加したが、予防費 (△21,433 千円)、環境衛生費 (△1,815 千円)、病院費 (△20,000 千円) などの減少から 4,482 千円減少している。

農林水産業費では、農地費 (△25,686 千円)、農村環境改善センター管理費 (△9,374 千円) などが減少し、農業振興費 (30,230 千円)、機場施設管理費 (12,850 千円) などの増加から 9,617 千円増加している。

商工費は、商工振興費 (△37,429 千円)、ふるさと物産館管理経費 (△3,929 千円) の減少により、41,358 千円減少している。

土木費では道路維持費 (△5,597 千円)、住宅管理費 (△5,230 千円) などが減少したが、公園費 (47,263 千円) などの増加により 36,772 千円増加している。

消防費は、南空知消防組合負担金の減少により 7,755 千円減少している。

教育費では中学校学校管理費（3,166千円）、中学校教育振興費（3,398千円）、スポーツセンター管理費（1,261千円）の増加はあるが、教育振興費（△8,932千円）、教育財産管理費（△1,543千円）、生涯学習センター管理費（△13,113千円）、給食センター運営費（△6,203千円）などの減少により20,202千円減少している。

公債費は、地方債元金償還費と利子償還費の増加に伴い15,719千円増加している。

### 3. 9月末保管現金の状況について

(単位：千円)

区 分	令和4年	令和3年	前年同期対比	
			増減額	増減率
歳 計 預 金	511,801	783,113	△271,312	△34.6%
基 金 預 金	1,527,138	1,474,051	53,087	3.6%
合 計	2,038,939	2,257,164	△218,225	△9.7%

9月末現在の保管現金は2,038,939千円で、前年同期比では運転資金である歳計預金が271,312千円減少、基金預金では53,087千円増加し、残高合計で前年同期比218,225千円の減少となっている。

### 4. 各課等の町政執行方針・教育行政執行方針及び事務事業等の実施状況について

#### ① 出納室

概ね適正に業務が執行され、特筆すべき事項はない。

#### ② 議会事務局

令和3年10月から本年9月までに全員協議会11回、議会まちづくり特別委員会10回、総務常任委員会10回、産業経済常任委員会11回が開催され、それぞれ内容について協議し、合意形成がされている。また、会議録等の作成についても適時行われている。

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

#### ③ 総務課

8月に予定していた防災学習会は、町民ボランティア団体の参加、区長会研修として実施する予定だったがコロナ禍のため中止を余儀なくされた。また、災害備蓄品整備計画に基づき整備を進めている備蓄品について、防災倉庫内の確認を行い、現状を目視した。引き続き、災害備蓄品の充実や避難所を含めた感染症対策に努められたい。

ふるさと応援寄附金については、特産品コーディネーターとして配置されている地域おこし協力隊が中心となり、返礼品の新規開発に取り組み37商品が新たに加わった。また、令和4年4月から中間業者へふるさと納税業務を委託し、ふるさと納税ポータルサイトの充実を図ったことにより一定の成果を上げており、担当職員と特産品コーディネーターの努力は評価すべきだが、本町と他自治体との寄附金額に差が大きいのは、本町

の基幹産業である農業における構造的な課題に起因しているものと考えられることから、単純に寄附金額の多寡に固執するのではなく、課題について制度全体を横断的に議論することが重要と考える。引き続き、町の知名度向上や地域の活性化につながる魅力ある返礼品を模索し事業展開していただきたい。

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

#### ④ まちづくり課

みどり野団地の分譲は、美園地域を中心に令和4年9月末で81区画となり、前年同月の41区画を大きく上回った。札幌近郊の宅地価格が高騰する中、継続した子育て世代住宅建築費助成や北海道住宅供給公社と連携した宅地価格の割引制度の展開が実を結び、みどり野団地の残区画数は446区画となった。知名度向上として公式LINE「南幌巡り」や、令和4年7月に地域おこし協力隊が連携して開設したInstagramによる情報発信、各種イベントやラジオを媒体とした効果的なPR活動を引き続き展開し、販売促進を含め本町の振興発展に取り組まれない。

10月1日で本格運行から1年が経過したオンデマンド交通「あいるーと」は、これまで1日平均36人の利用があり、延べ利用者数は4月から9月までで4,453人となっている。時間別乗車を見ると9時から10時台が最も多くなっており、乗車・降車場所で最も多かったのはAコープで続いて南幌温泉となっている。順調な運行が続いており、82.8%の人が現金での利用でWAONでの利用が8.1%となっている。

この事業については地域住民の足として生活交通に欠かせない存在となっている。

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

#### ⑤ 住民課

国民健康保険特別会計における9月末の対象世帯数は1,078世帯と前年同期の1,059世帯に対し19世帯、1.8%増加、被保険者総数は1,800名と前年同期の1,787名に対し13名、0.7%増加している。

##### 【保険給付費支出状況】

(単位：千円)

科 目	令和4年9月末			前 年 同 期	増 減	
	予算現額	支出額	執行率		増減額	増減率
療養給付費	550,000	230,975	42.0%	203,372	27,603	13.6%
療 養 費	5,000	1,702	34.0%	2,181	△479	△22.0%
高額療養費	82,200	39,862	48.5%	31,667	8,195	25.9%
小 計	637,200	272,539	42.8%	237,220	35,319	14.9%

後期高齢者医療特別会計における9月末の被保険者数は1,360名と前年同期の1,321

名に対し 39 名、3.0%増加している。

広域連合負担金は予算現額 117,041 千円に対し 36,383 千円と執行率 31.1%、前年同  
期の 37,385 千円に対し 1,002 千円、2.7%減少している。

マイナンバーカードの交付状況は、本年度 9 月末現在で 3,804 枚、51.6%の交付率と  
なっており、本町の交付率は近隣自治体だけではなく、北海道平均を大きく上回ってい  
る。カード普及まで時間を要しているのは、これまでの国の対応に責任があると思える  
が、本町では交付に際し、申請する住民の生活事情に配慮して休日窓口や夜間窓口を開  
設するなど、住民サービスの向上に努め、交付率アップに向けた意欲的な取り組みが功  
を奏したといえる。

行政区・町内会が管理する防犯灯のLED化率は、令和3年度末で73.5%であり、前  
年度末54.9%と比較し、18.6%増加と着実にLED化が進んでいる。

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

## ⑥ 税務課

9 月末の調定額合計 1,216,040 千円は前年同期比 24,319 千円、2.0%の増加、収納額  
合計 657,915 千円は前年同期比 23,206 千円、収納率 54.1%は前年同期比 0.8%増加して  
いる。

### 【9月末の町税等現年度分収納状況】

(単位：千円)

税 目 等	令和4年9月末			令和3年9月末			
	調定額	収納額	収納率	調定額	収納額	収納率	
一 般 会 計	個人町民税	358,147	135,092	37.7%	361,300	134,394	37.2%
	法人町民税	27,814	26,651	95.8%	26,818	26,477	98.7%
	固定資産税	321,014	223,566	69.6%	298,324	212,535	71.2%
	国有資産等交付金	1,742	1,742	100.0%	2,683	2,683	100.0%
	軽自動車税	26,763	26,393	98.6%	25,854	25,343	98.0%
	たばこ税	35,789	35,789	100.0%	31,596	31,596	100.0%
	入湯税	6,980	6,980	100.0%	6,688	6,688	100.0%
	小計	778,249	456,213	58.6%	753,263	439,716	58.4%
国民健康保険税	195,970	80,474	41.1%	201,153	82,687	41.1%	
介護保険料	160,945	84,190	52.3%	158,915	74,564	46.9%	
後期高齢保険料	80,876	37,038	45.8%	78,390	37,742	48.1%	
合計	1,216,040	657,915	54.1%	1,191,721	634,709	53.3%	

9 月末現在の滞納繰越調定額は 70,368 千円、収納額は 5,716 千円、収納率 8.1%と前  
年同期の調定額 77,219 千円、収納額 5,034 千円、収納率 6.5%を上回っている。

滞納繰越額については年々減少傾向にあり、コンビニ納付の定着やスマートフォン決済の利用増加などの成果が表れていると考えられる。

【9月末の町税等滞納繰越分収納状況】

(単位:千円)

税目等		令和4年9月末			令和3年9月末		
		調定額	収納額	収納率	調定額	収納額	収納率
一般会計	個人町民税	10,314	887	8.6%	12,548	1,259	10.0%
	法人町民税	350	180	51.4%	567	182	32.1%
	固定資産税	5,653	935	16.5%	5,736	416	7.3%
	軽自動車税	65	16	24.6%	116	26	22.4%
	小計	16,382	2,018	12.3%	18,967	1,883	9.9%
	国民健康保険税	52,077	3,057	5.9%	56,998	3,024	5.3%
	介護保険料	1,150	176	15.3%	968	56	5.8%
	後期高齢保険料	759	465	61.3%	286	71	24.8%
	合計	70,368	5,716	8.1%	77,219	5,034	6.5%

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

⑦ 保健福祉課

あいくる利用状況は、本年度も新型コロナウイルスのワクチン接種会場になったことから、18,906名と前年の14,511名、前々年の5,663名より大幅に増加している。

あいくるふれあいの湯については、利用者数は4,665名と前年の5,120名から減少した。

理解促進研修・啓発事業については、障がいを持った本人や家族による「写真&アート展」、全盲のフルート奏者による「フルートコンサート」をボランティアフェスタなんぼろにおいて開催している。

特定健康診査については、6月集団健診に153名、9月集団健診に59名が受診した。9月末現在では、個別も含めて特定健診受診者数は269名（前年度209名）、後期高齢者145名（前年度98名）となっている。昨年まではコロナ禍で受診控えが続いていたが、今年度に入って受診率も回復傾向にあり、引き続き、健診・医療・介護データの一体的な分析を行い、特定保健指導による生活習慣病の重症化予防と医療費の抑制に取り組まれない。各種がん検診についても、特定健診と同様受診率は回復傾向にある。

今年度からスタートした子育て支援アプリについては、9月末現在の登録ユーザー数は106件となっている。2歳未満の子どもは子育て支援アプリに登録すると、乳幼児用防災リュックの配布があるため、2歳未満の登録が75%以上と高く、予防接種の管理や子どもの成長発達の確認、町の子育て情報の発信などに活用されている。

子育てガイドブックについては、第3版を5,000部作成し、町内のみならず、各種イベントや近隣の駅、病院等でも配布して町の子育て情報を紹介している。

高齢者数の上昇に伴い、本町においても第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画において、今後、多種多様な課題やニーズが発生してくると予想している。

高齢者の相談窓口では介護保険制度や認知症に関する相談が多い現状となっており、成年後見制度の利用や高齢者虐待などにも迅速に対応できるよう総合相談窓口の周知啓発がより一層必要と考える。

令和3年度より実施している地域リハビリテーション活動支援事業では、コロナ禍により休止を余儀なくされている状況もあるが、地域住民が自主的に介護予防に取り組んで行けるよう普及啓発に努め、虚弱（フレイル）予防に繋げている。

9月末時点の介護保険特別会計の被保険者数は、第1号被保険者で2,620名、前年同期の2,579名に比べ41名、1.6%増加している。要介護認定者数は496名と前年同期の454名に比べ42名、9.3%増加している。要介護認定となる高齢者の割合は増加している傾向であるが、早期対応に努めることでサービスの適正な利用に繋がり、自立した生活を営むことが可能となっているとも考える。

外出の機会が減り、身体を動かすことが減っていることも少なからず影響していると考え、持続可能な介護予防事業の実施と適切なサービスの提供に向けて、長寿となっても安心して暮らせるよう、町と関係機関との連携は今後も重要であると考え。

介護給付費の総支出額307,416千円は前年同期比23,223千円、8.2%増加している。

介護サービス費では277,292千円と前年同期比21,773千円、8.5%増加した。うち居宅サービス前年同期比2,503千円、2.8%、施設サービスは前年同期比16,406千円、16.6%増加、地域密着型サービス前年同期比2,864千円、4.3%の増加となっている。

### 【介護給付費支出状況】

(単位：千円)

科 目	令和4年9月末			前 年 同 期	増 減	
	予算現額	支出額	執行率		増減額	増減率
介護サービス費	695,000	277,292	39.8%	255,519	21,773	8.5%
居宅サービス	241,000	92,464	38.4%	89,961	2,503	2.8%
地域密着型サービス	173,000	69,749	40.3%	66,885	2,864	4.3%
施設サービス	281,000	115,079	41.0%	98,673	16,406	16.6%
介護予防サービス	28,300	10,929	38.6%	9,667	1,262	13.1%
高額介護サービス	18,600	6,974	37.5%	6,454	520	8.1%
特定入所者介護サービス	24,200	9,040	37.4%	9,499	△459	△4.8%
高額医療合算介護サービス	3,700	2,866	77.4%	2,756	110	4.0%
審査支払手数料	660	315	47.7%	298	17	5.7%
合 計	770,460	307,416	39.9%	284,193	23,223	8.2%

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

## ⑧ 都市整備課

9月末の三重湖公園、三重緑地公園に設置したキャンプ場の利用者は15,146名と前年度の9,372名を5,774名、61.6%上回った。昨年は緊急事態宣言に伴いキャンプ場を閉鎖したことも影響しているが、キャンプブームにより多くの人が南幌町へ訪れていることが伺える。

現在、中央公園に建設中の大型滑り台は、多くの遊びの機能を取り入れた複合遊具として整備され、来年5月オープンする子ども室内遊戯施設とともにたくさんの子どもの笑顔があふれることを期待する。

概ね適正に業務が執行され、特筆すべき事項はない。

## ⑨ 産業振興課

本町の基幹産業である農業において、父祖の代より受け継いできた農地を守るためには担い手の育成が必須であるため、あらためて本町農業を牽引する両輪である、町とJAが将来の農業の在り方について知恵を出し合い、若い担い手を対象とした研修機会の創出などを検討されたい。

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

## ⑩ 農業委員会事務局

概ね適正に業務が執行され、特筆すべき事項はない。

## ⑪ 教育委員会生涯学習課、生涯学習センター、スポーツセンター、学校給食センター、南幌小学校、南幌中学校

本年度の中学生国際留学プログラム事業は、8月に派遣先をオーストラリアから山梨県の語学学校に変更し、中学3年生6名が参加している。

また、小学4年生から中学3年生までを対象とした公設学習塾は、小学生34名、中学生35名が参加し、算数・数学は年25回、小学6年生のみ対象の英語は年10回の予定で進められている。

南幌小学校・南幌中学校を訪問し、それぞれ校長、教頭から学校側で作成された学校経営計画に基づき、説明を受けるとともに聞き取りを行った。

社会体育事業は、スポーツや軽運動による参加者の健康増進のみならず、地域コミュニティの交流・促進を目的としているため、コロナ禍における開催判断が慎重にならざるを得ないが、サークルや団体活動の衰退が懸念される。

ふるさと南幌みらい塾等の講座をきっかけとして、町民のスポーツ文化活動に繋がるような事業展開を期待する。

9月末の各種社会教育関係施設の利用状況は、前年同期に比べ利用者数が18,743名増加となっている。

**【9月末社会教育関係施設の利用状況】**

項 目		単位	本 年 9 月 末	前 年 同 期	対 比	
					増 減	増減率
改 善 セ ン タ ー		名	8,180	1,348	6,832	506.8%
ぼ ろ ろ		名	5,479	7,717	△2,238	△29.0%
体 育 施 設	ス ポ ー ツ セ ン タ ー	名	22,013	12,896	9,117	70.7%
	プ ー ル	名	6,177	3,790	2,387	63.0%
	ト レ ー ニ ン グ ル ー ム	名	3,597	1,169	2,428	207.7%
学 校 開 放	南 幌 小 学 校	名	2,339	2,187	152	7.0%
	南 幌 中 学 校	名	377	312	65	20.8%
合 計		名	48,162	29,419	18,743	63.7%
図 書 貸 出		冊	19,717	18,097	1,620	9.0%

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

⑫ 町立南幌病院

本年度9月末までの外来診療日数は123日と前年同期より1日多い。

病床数は昨年度と同様、地域包括ケア病棟60床で稼働している。

常勤医師は本年度当初に1名採用したものの、昨年度末に2名が退職したことにより3名体制となっている。

1. 9月末患者数について

**【9月末患者数】**

(単位：人)

区 分	令和4年9月末			令和3年9月末			令和2年 9 月 末
	延患者数	増減数	増減率	延患者数	増減数	増減率	
入 院	7,378	157	2.2%	7,221	1,743	31.8%	5,478
外 来	7,754	932	13.7%	6,822	389	6.0%	6,433
合 計	15,132	1,089	7.8%	14,043	2,132	17.9%	11,911

9月末の患者数は合計15,132名と前年同期比1,089名、7.8%増加した。

入院患者は7,378名と前年同期の7,221名から157名、2.2%増加し、9月末の病床利用率は68.7%と前年同期の64.8%を3.9%上回っている。

外来患者数は7,754名と前年同期の6,822名から932名、13.7%増加し、9月末の1日平均患者数は63.0名と前年同期の55.9名を7.1名上回っている。

## 2. 9月末医業損益の状況について

### 【9月末の医業収支】

(単位：千円)

科 目	令 和 4 年 度			令 和 3 年 度	前年同期対比		
	予算現額	9 月 末 実 績	進 度 率		増減額	増減率	
医 業 収 益	入 院	335,800	169,899	50.6%	154,368	15,531	10.1%
	外 来	101,492	77,187	76.1%	56,793	20,394	35.9%
	その他	73,916	18,498	25.0%	29,421	△10,923	△37.1%
	計	511,208	265,584	52.0%	240,582	25,002	10.4%
医 業 費 用	給与費	457,859	168,315	36.8%	193,720	△25,405	△13.1%
	材料費	51,792	16,574	32.0%	16,039	535	3.3%
	経 費	172,946	62,142	35.9%	67,277	△5,135	△7.6%
	その他	58,632	621	1.1%	195	426	218.5%
	計	741,229	247,652	33.4%	277,231	△29,579	△10.7%
医 業 収 支	△230,021	17,932	—	△36,649	54,581	—	

医業収益は 265,584 千円と進捗率 52.0%、前年同期比 25,002 千円、10.4%増加し、このうち入院収益は 169,899 千円と進捗率 50.6%、前年同期比 15,531 千円、10.1%増加した。

9 月末の入院患者数で除した全病床を平均した累計の入院単価は 23,064 円と前年同期の 21,378 円を 1,686 円、7.9%上回っている。

地域医療連携室を中心とした集患活動により入院患者数が増加し、入院収益の増収につながった。

外来収益は 77,187 千円と進捗率 76.1%、前年同期比 20,394 千円、35.9%増加した。

9 月末の外来 1 人当たりの単価は 9,955 円と前年同期の 8,325 円を 1,630 円、19.6%上回っており、訪問診療や PCR 検査対応の増加が外来単価の上昇と外来収益の増収に繋がっている。

その他医業収益は 18,498 千円と進捗率 25.0%、前年同期比△10,923 千円、37.1%減少したが、コロナワクチン接種業務による医業相談収益の減少が主な要因である。

医業費用は 247,652 千円と進捗率 33.4%、前年同期比△29,579 千円、10.7%の減少となっている。

このうち給与費は 168,315 千円と進捗率 36.8%、前年同期比△25,405 千円、13.1%減少した。昨年度と比較し、常勤医師 1 名の減が主な要因である。

材料費は PCR 検査試薬の購入増加などから 16,574 千円と進捗率 32.0%、前年同期比 535 千円、3.3%増加した。

経費はコロナワクチン接種に係る医師人材紹介手数料の減少などから 62,142 千円と進捗率 35.9%、前年同期比△5,135 千円、7.6%減少している。

このことから、医業収支は 17,932 千円と前年同期の△36,649 千円から 54,581 千円改善し、医業費用で医業収益を除いた医業収支比率は 107.2%と前年同期の 86.8%を 20.4%上回った。

### 3. 運転資金について

町立病院は、診療報酬のほか医療体制の維持確保等に係る経費が交付税等で措置されているが、これに加えて資金不足の補てん金が一般会計から毎年度繰入れされている。

このうち資金不足の補てん金は、令和3年度 5 千万円と前年度 7 千万円から 2 千万円減額した。

本年度は、6 月に一般会計から 1 億 8 千万円を繰入れし、9 月末の現預金残高は 333,844 千円と前年同期の 205,621 千円を 128,223 千円、62.4%上回っている。

引き続き、入院患者の確保や訪問診療の強化などにより安定した経営を行い、資金不足の補てん金を減額させていくことが重要である。

概ね適正に業務が執行され、上記のほか特筆すべき事項はない。

## V. 監査の結果

総括意見として定例監査の所見を述べる。

令和4年度町政執行方針及び教育行政執行方針に沿って、概ね適正に事務執行されていると認められる。

財務及び事務に関する執行状況は、本年度の実施事項の特徴を挙げ各項において検討した結果、財務に関する事務及び南幌町行政組織規則第4条から第10条及び第12条、南幌町議会事務局規程第4条、南幌町農業委員会事務局設置規程第4条、南幌町教育委員会事務局組織規則第5条、国民健康保険町立南幌病院規則第6条に規定されている事務分掌の執行状況は、概ね適正と認められる。

令和4年度は、世界規模ではロシアによるウクライナ侵攻がまだ継続しており、この蛮行がエネルギーや食糧、建築資材の高騰を引き起こし、世界経済に大きく影を落としている。国内においてもその影響は大きく、ガソリン価格の高騰、食品、日用品の相次ぐ値上げが庶民生活を圧迫し、年金生活者は将来により一層の不安を抱いている。

北海道では前年からの記録的な大雪により、雪解けの遅れが心配されたが、4月以降の好天により農作業も順調に推移した。

第6期総合計画【後期基本計画】の初年度である令和4年度は、いまだ明けぬコロナ禍において、感染拡大防止に取り組みながらも、町の灯りを消さないよう経済対策を行い、各種事業も感染の状況を窺いながら実施するという難しい判断を強いられたことは想像に難くない。しかしながら、隣町である北広島市のボールパーク建設が着々と進むなか、道央圏連絡道路の中樹林道路の完成が令和6年度中と公表され、本町においても子ども室内遊戯施設の来年5月オープンに向け、中央公園内で整備が進んでおり、コロナ禍でこれまで閉塞感のあった状況から変化の兆しを感じられるところでもある。

その光明は、23年ぶりに本町の人口がプラスに転じたということからも伺える。ただし、急激な変化は軋轢を伴うこともあり、緩やかかつ着実な発展を望むものである。本町の過去において、人口1万人を達成したのち、平成11年より人口は減少の一途をたどってきたが、その間における移住施策、企業誘致担当の苦労は推し量るに難くない。そのような我慢の年月を経て、いまがあるということを新採用職員にも伝えるとともに、職員それぞれが忘れずに持続可能な“住みやすい”まちづくりに取り組むよう望むとともに、引き続き、コロナ禍における速やかかつ遺漏のない対応と、健全財政維持を念頭に理事者及び職員の活躍を期待し結びとする。